

AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録(2019.7) 平成30年度:85.

がん化学療法を前向きに継続できている要因

北 瞳, 鈴木 麻友, 篠原 美沙

がん化学療法を前向きに継続できている要因

6階東ナースステーション ○北瞳 鈴木麻友 篠原美沙

目的：ステージⅣの大腸がんと診断され、10年間がんと向き合ったA氏が前向きに治療を継続できている要因を明らかにする。

方法：A氏（50代、女性）の入院中の看護記録から、治療や病気に関する発言をデータとして抽出し、類似性によりサブカテゴリー、カテゴリーにまとめ質的に分析した。

結果：89のコード、24のサブカテゴリー、9のカテゴリーに集約した。カテゴリーは【自己管理能力と伝える力が高い】、【化学療法による様々な症状の出現と病気や治療の不確かさによる不安を看護師に表出することで安心感につながっている】、【不安が増強しないよう治療や症状への情報を双方向のコミュニケーションで得ている】、【生きるために治療を続ける意思がある】、【何が起こるか分からない恐怖感を持ちながらも10年間乗り越えてきた経験が自信になっている】、【命に直結するような症状に恐怖を感じながらも無事治療が終えられた】、【オキサリプラチン中止後治療効果に影響を与えていないことで安堵しQOLが向上した】、【家族の存在が治療を続ける力になる】、【ピアサポートの力を活用しエンパワーメントされている】の9に分類された。

考察：A氏が治療を継続できた要因は、生きたいという意思を根底としたA氏の持つ力と、家族と同室者からの支えの2つであると考えます。A氏の持つ力は、治療経験から得た自己管理する力、症状や体調の変化を伝える力、自身の性格を理解し情報をコントロールする力、10年間の治療を乗り越えた自信から得た力の4つの大きな軸から構成されていた。さらに、家族や同室者との関係性を活かして、A氏の持つ力を強めていた。今後、短期入院でがん化学療法を受ける患者に対して、患者の持つ力を引き出し、生活と長期的な治療に折り合いをつけて治療継続できるよう支援していきたい。